



IBM FormWave for WebSphere バージョン 6.1

フィックス・パック 5 リリースノート

2008年08月 公開

本版は IBM FormWave for WebSphere バージョン 6.1 に適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 1999-2008. All rights reserved.

目次

はじめに.....	3
フィックス・パックの内容.....	3
フィックス・パックの適用手順.....	3
修正項目の説明.....	6
クライアント・サービス.....	6
[12-224-49060] web.xmlに定義されているリソース参照名が正しくない.....	6
その他.....	6
[12-224-58495] サンプル操作ログ・ハンドラーのlog4j用プロパティ・ファイル名の変更.....	6
フィックス・パック 4 に含まれる修正項目の説明.....	7
クライアント・サービス.....	7
[12-087-49945] Postデータが欠損した場合にフィールドに予期しない値がセットされる可能性がある.....	7
[12-035-66198] 状況表示などの検索時に、URLの一番後ろに検索文字のパラメーターが付加されているとエラーとなる.....	7
[12-094-50349] 状況表示画面において、Webサービスの例外発生時のエラー・メッセージに誤りがある.....	7
[11-355-35379] 状況表示のGUIでノードの処理が完了後にチェック・アイコンが見つからない.....	8
[12-179-48322] JSPでjavax.servlet.http.HttpServletRequestのメソッドgetQueryStringを呼び出すとnullが返る.....	8
フロー・エンジン.....	8
[12-149-41472] 動的代行が追加されないケースがある.....	8
[12-154-68893] 監視APIでデッドロックが発生する.....	9
管理画面.....	9
[12-052-37825] 代行者設定の編集時にコマンドが2回発行される.....	9
[12-192-45800] 「代行設定」ボタンを押すとNullPointerExceptionが発生する.....	9
メッセージ・サービス.....	9
[11-340-53027] JMSメッセージ管理ツールに不正なパスワードでログインできてしまう.....	9
[11-316-67305] コネクションの分離レベルが、フロー・エンジンやクライアント・サービスの分離レベルと異なる.....	10
開発環境.....	10
[11-320-44945] テキスト・フィールドの文字の長さが未設定でも定義エラーとして検出されない.....	10
[11-337-58434] 数値フィールドのプロパティ設定で”小数点以下”というラベルがアクティブにならない場合がある.....	10
[11-352-51408] 簡易式の入力エディターで入力していない改行が挿入されてしまう.....	11
[12-157-50151] リクエスター用WSDL生成時のエラー・メッセージの内容に誤りがある.....	11
[12-171-40936] マッピング定義で添付ファイル型のフィールドがマップできてしまう.....	11
フィックス・パック 4 に含まれる機能追加項目の説明.....	11
クライアント・サービス.....	11
[12-008-50690] 「伝票の再利用時には、イベント処理のonOpenFormが呼ばれない」の互換モードを追加.....	12
サービス連携機能.....	12
[12-192-48607] 取消し、取戻しオペレーションの追加.....	12
[12-192-48251] 起票処理時に所属組織と送付済みコピーモードを指定可能にする.....	12
[12-192-48814] HTTP基本認証機能を付加する.....	12
[12-192-49808] 処理定義の副作用としてのWebサービス呼び出しを可能にする.....	13
[12-192-47922] 構造体形式のメッセージを扱えるようにする.....	13
その他.....	13
[12-191-40128] ユーザー操作のロギング機能.....	13
付録A これまでにリリースしたフィックス一覧.....	14
機能拡張項目.....	14
修正項目.....	14

はじめに

本書は、IBM® FormWave™ for WebSphere® V6.1 フィックス・パック 5 のリリースノートです。本書では、今回のフィックス・パックで修正された不具合や追加された新機能について説明します。

フィックス・パックの内容

フィックス・パックは ZIP 形式の圧縮ファイルで提供されます。この圧縮ファイルは、以下のファイルを含んでいます。なお、このフィックス・パック 5 は、フィックス・パック 4 に含まれるすべての修正および機能拡張を含みます。

FW6105_ReleaseNote.pdf	このファイルです。
fcserver.jar	FormWave 本体の修正モジュールです。
FormConnect.jar	FormWave 開発環境の修正モジュールです。
FormWave.ear	FormWave の修正エンタープライズ・アプリケーションです。
FWUtility.ear	JMS メッセージ管理ツールの修正エンタープライズ・アプリケーションです。
FWMonitor.ear	監視 API ツールの修正エンタープライズ・アプリケーションです。
FWService.ear	サービス・プロバイダーの修正エンタープライズ・アプリケーションです。
FCService.xsd	サービス連携機能で使用する XML スキーマ定義ファイルです。
ProjectDefinition.ddl(.sql)	ProjectDefinition テーブルの DDL ファイルです。
fceventsource.properties	操作ログ機能のプロパティ・ファイルです。（props ディレクトリーに配置してください）
log4j_formwave.xml	操作ログ機能のサンプル・ハンドラーで使用する log4j の設定ファイルです。
com/ibm/FormConnect/eventsrc/logging/handler/sample/xxxxxx.java	操作ログ機能のハンドラーの Java サンプルコードです。
doc/xxxxxx.pdf	本フィックス・パックに対応した製品マニュアル群(4冊)です。

フィックス・パックの適用手順

1. 修正モジュールの適用

以下の手順にしたがって各修正モジュールを適用してください。

① fcserver.jar の適用

FormWave が稼働するすべてのマシンについて以下の手順(1)~(3)を実行してください。

- (1) WebSphere Application Server の管理コンソールで FormWave 関連のエンタープライズ・アプリケーションを停止してください。
例) FormWave、FlowEngine、MessageService
- (2) 現在ご利用の fcserver.jar のバックアップを取り、今回のモジュールで置き換えて下さい。
fcserver.jar は、以下のディレクトリーにあります。
(FormWave 導入ディレクトリー) /lib/fcserver.jar
例) /opt/FormWave/lib/fcserver.jar
- (3) WebSphere Application Server の管理コンソールで FormWave 関連のエンタープライズ・アプリケーションを再始動すれば適用完了です。

② FormConnect.jar の適用

FormWave 開発ツールパッケージが導入されているすべてのマシンについて以下のファイルを置換してください。

開発ツールパッケージ JRE 版の場合：

(FormWave 導入ディレクトリー) %com.ibm.FormConnect.design.eclipse%FormConnect.jar

開発ツールパッケージ Eclipse 版の場合：

(SDP 導入ディレクトリー) %eclipse%plugins%com.ibm.FormConnect.design.eclipse%FormConnect.jar

③ ProjectDefinition テーブルへのカラムの追加

本フィックス・パックで提供の ProjectDefinition.ddl(Oracle の場合には ProjectDefinition.sql)ファイルを使用して、ProjectDefinition テーブルへカラムを追加します。

以下は EAR ファイルの適用方法になります。。EAR ファイルを適用する場合には、必ず EAR ファイルの中に配置しております、JSP ファイルや HTML ファイルなどのアプリケーションの成果物のバックアップをしてから作業を行ってください。

④ FormWave.ear の適用

この ear ファイルを適用することにより、以下の項目の機能を使用することができるようになります。

- ・ [12-191-40128] ユーザー操作のログイン機能

以下の手順(1)~(5)を実行してください。

- (1) 既存の FormWave.ear ファイルの中に配置してあります、アプリケーションの成果物(JSP, HTML ファイルなどの Web リソースや、クラスファイルや Jar ファイルなど)のバックアップを取得します。
- (2) 本フィックス・パックで提供の FormWave.ear ファイルを Rational Software Development Platform や WAS に付属の Application Server Toolkit などにインポートします。
- (3) インポートした FormWave.ear ファイルに、手順(1)でバックアップしたファイルに戻します。
- (4) バックアップしたファイルをすべて戻したら、その ear ファイルをエクスポートします。
- (5) WAS の管理コンソールから、既存の FormWave アプリケーションを削除し、新たに手順(4)でエクスポートした ear ファイルをインストールします。インストール方法は、製品マニュアルの「インストールガイド」を参照してください。

⑤ FWUtility.ear の適用

この ear ファイルを適用することにより、以下の項目が修正されます。

- ・ [11-340-53027] JMS メッセージ管理ツールに不正なパスワードでログインできてしまう

以下の手順(1)~(5)を実行してください。

- (1) FWUtility.ear ファイルの中に含まれているプロパティ・ファイル(fwconsole.properties)を変更している場合には、このプロパティ・ファイルのバックアップを取得します。
- (2) 本フィックス・パックで提供の FWUtility.ear ファイルを Rational Software Development Platform や WAS に付属の Application Server Toolkit などにインポートします。
- (3) インポートした FWUtility に、手順(1)でバックアップしたプロパティ・ファイルに戻します。
- (4) プロパティ・ファイルに戻したら、その ear ファイルをエクスポートします。
- (5) WAS の管理コンソールから、既存の FWUtility アプリケーションを削除し、新たに手順(4)でエクスポートした ear ファイルをインストールします。インストール方法は、製品マニュアルの「メッセージ連携ガイド」を参照してください。

また、プロパティ・ファイル(fwconsole.properties)を変更していない場合には、WAS の管理コンソールから、既存 FWUtility アプリケーションを、本フィックス・パックで提供の FWUtility.ear ファイルに置換していただくことも可能です。

⑥ FWMonitor.ear の適用

この ear ファイルを適用することにより、以下の項目が修正されます。

- ・ [12-154-68893] 監視 API でデッドロックが発生する

以下の手順(1)~(5)を実行してください。

- (1) FWMonitor.ear ファイルの中に含まれている WSDL ファイル(FWMonitor.wsdl)を変更して使用している場合には、この WSDL ファイルのバックアップを取得します。
- (2) 本フィックス・パックで提供の FWMonitor.ear ファイルを Rational Software Development Platform や WAS に付属の Application Server Toolkit などにインポートします。
- (3) インポートした FWMonitor に、手順(1)でバックアップした WSDL ファイルに戻します。
- (4) WSDL ファイルに戻したら、その ear ファイルをエクスポートします。
- (5) WAS の管理コンソールから、既存の FWMonitor アプリケーションを削除し、新たに手順(4)でエクスポートした ear ファイルをインストールします。インストール方法は、製品マニュアルの「管理者ガイド」を参照してください。

また、WSDL ファイルを変更していない場合には、WAS の管理コンソールから、既存 FWMonitor アプリケーションを、本フィックス・パックで提供の FWMonitor.ear ファイルに置換していただくことも可能です。

⑦ FWService.ear の適用

※ SOA サービス・プロバイダーの機能をご使用の場合には、fcserver.jar, FormConnect.jar の適用と併せて必ず FWService.ear の適用も実施してください。

この ear ファイルを適用することにより、以下の項目の機能を使用することができるようになります。

- ・ [12-192-48607] 取消し、取戻しオペレーションの追加
- ・ [12-192-48251] 起票処理時に所属組織と送付済みコピーモードを指定可能にする
- ・ [12-192-47922] 構造体形式のメッセージを扱えるようにする

WAS の管理コンソールから、既存 FWService アプリケーションを、本フィックス・パックで提供の FWService.ear ファイルに置換してください。

既存の FWService アプリケーションを削除してから、新たにインストールすることも可能です。インストール方法は製品マニュアルの「サービス連携ガイド」を参照してください。

⑧ サンプル操作ログ・ハンドラーに関連する修正の適用

本フィックス・パックに同梱のプログラマーズ・ガイド P.184 の『サンプル操作ログ・ハンドラーの使用方法』にある手順を参照してください。

2. フィックス・パックの適用確認

修正モジュールを適用後に、以下の手順にしたがって FormWave のバージョンを確認してください。

(1) FormWave 導入ディレクトリー下の engine ディレクトリーに移動します。

(2) 以下のコマンドを実行します。

Windows 版： fctool FWVersion [Enter]
AIX 版/Linux 版： ./fctool.sh FWVersion [Enter]

(3) コマンドの実行結果を確認します。

6.1.0 の FixPack 5 場合は、
IBM FormWave for WebSphere
Version : 6.1.0.5
と表示されます。

開発ツールパッケージのバージョンは、プロジェクト・デザイナーを起動して、「プリファレンス」メニューの「プロジェクト・デザイナーについて」を表示することで確認することができます。

修正項目の説明

クライアント・サービス

[12-224-49060] web.xml に定義されているリソース参照名が正しくない

障害概要

FormWave.ear に含まれる ClientService.war の web.xml に定義されているリソース参照の名前が正しくない。

障害詳細

FormWave.ear に含まれる ClientService.war の web.xml に定義されている作業マネージャーのリソース参照の名前が正しくありませんでした。フィックス・パック 4 に含まれる FormWave.ear をインストール後、ユーザー操作のロギング機能を使用すると標準エラー出力 (SystemErr.log) に以下のようなスタック・トレースが出力され、操作ログ・ハンドラーが呼び出されません。

```
javax.naming.NameNotFoundException: Name "comp/env/wm/FCEventSourceWorkManager" not found in context "java:".
    at com.ibm.ws.naming.ipbase.Namespace.lookupInternal (Namespace.java:1095)
    at com.ibm.ws.naming.ipbase.Namespace.lookup (Namespace.java:991)
    at com.ibm.ws.naming.urlbase.UrlContextImpl.lookup (UrlContextImpl.java:1263)
    at com.ibm.ws.naming.java.javaURLContextImpl.lookup (javaURLContextImpl.java:384)
    at com.ibm.ws.naming.java.javaURLContextRoot.lookup (javaURLContextRoot.java:204)
    at com.ibm.ws.naming.java.javaURLContextRoot.lookup (javaURLContextRoot.java:144)
    at javax.naming.InitialContext.lookup (InitialContext.java:363)
    at
    com.ibm.FormConnect.eventsrc.logging.LogEventSourceManager.getWorkManager (LogEventSourceManager.java:126)
    at
    com.ibm.FormConnect.eventsrc.logging.LogEventSourceManager.invokeProcessor (LogEventSourceManager.java:240)
    at
    com.ibm.FormConnect.aspect.eventsrc.logging.LogEventSourceAspectImpl.callEventSourceManager (LogEventSourceAspectImpl.java:23)
    at
    com.ibm.FormConnect.aspect.eventsrc.logging.client.LoginBAAAspect.ajc$afterThrowing$com_ibm_FormConnect_aspect_eventsrc_logging_client_LoginBAAAspect$2$6e00fb1b (LoginBAAAspect.aj:76)
    at com.ibm.FormConnect.client.Authentication.execute (Authentication.java:44)
    at com.ibm.FormConnect.client.servlet.FCHttpServlet._getClientEnv (FCHttpServlet.java:200)
    at com.ibm.FormConnect.client.servlet.FCHttpServlet.doGet (FCHttpServlet.java:109)
```

影響範囲

ユーザー操作のロギング機能をご使用でない場合は影響ありません。

その他

[12-224-58495] サンプル操作ログ・ハンドラーの log4j 用プロパティ・ファイル名の変更

障害概要

ユーザー操作のロギング機能で、サンプルの操作ログ・ハンドラーで使用する log4j 用のプロパティ・ファイルの名前が変更されました。

障害詳細

ユーザー操作のロギング機能で、サンプルとして提供されている操作ログ・ハンドラーで使用する log4j 用のプロパティ・ファイルのデフォルトのファイル名を、"log4j.xml" から "log4j_formwave.xml" に変更しました。これは既存の log4j を使用したアプリケーションへ影響を与えることを防ぐためです。

影響範囲

サンプルの操作ログ・ハンドラーをご使用でない場合は影響ありません。

フィックス・パック 4 に含まれる修正項目の説明

クライアント・サービス

[12-087-49945] Post データが欠損した場合にフィールドに予期しない値がセットされる可能性がある

障害概要

FormWave のサブレットに対する Post データが何らかの原因で欠損した場合に、フィールド値に不正な値がセットされる場合がある。

障害詳細

ネットワーク障害等の原因により、FormWave のサブレットに対する Post データが途中で欠損した状態で送信された場合に、フィールド値に本来セットすべき値とは異なる不正な値がセットされる可能性があります。これは、FormWave のサブレットの Post データを解析するロジックにおいて、終端バウンダリーをチェックするロジックに問題があったためです。この修正により、Post データが欠損している場合にはリクエスト送信元のクライアントにエラーが返るようになります。

影響範囲

何らかの原因で Post データが欠損した場合には発生する可能性があります。

[12-035-66198] 状況表示などの検索時に、URL の一番後ろに検索文字のパラメーターが付加されているとエラーとなる

障害概要

状況表示などの検索時に、URL の一番後ろに検索文字のパラメーターが付加されていると、エラーとなり検索に失敗する。

障害詳細

状況表示などの検索時に、検索条件を URL のパラメータ(ss=xxxxx)として付加して URL を作成しますが、その検索文字のパラメーターが URL の一番後ろに付加されていると、エラーとなり検索に失敗します。

例えば、次のような URL を組み立てた場合にエラーとなります。

```
http://localhost:9080/FormConnect/ClientServlet?jsp=%2Fclient%2FBlueMenu.jsp&type=_status&sort=submitdate&sm=title&st=&ss=test
```

影響範囲

BlueMenu.jsp などの FormWave が提供しているサンプルメニューをそのまま使用している場合には、URL の一番後ろに検索文字パラメーターが付加されることはないため、影響はありません。メニュー画面をカスタマイズして使用しており、かつ URL の一番後ろに検索文字のパラメーターが付加される可能性がある場合にのみ影響があります。

[12-094-50349] 状況表示画面において、Web サービスの例外発生時のエラー・メッセージに誤りがある

障害概要

Web サービスノードで指定したインターフェースのオペレーション型に不正な値が設定されているときなどに、状況表示画面のエラー・メッセージで、操作名が表示されるべき箇所にインターフェース ID が表示される。

障害詳細

Web サービスノードで指定したインターフェースのオペレーション型に本来要求/応答で設定するべきところを、インターフェース・デザイナーで一方向に変更した場合、そのノードが実行された時点の状況表示画面のエラー・メッセージが以下のように表示されます。

内容 : DYOS06003:ノード [Webサービス] で例外が発生しました。内容 : 操作名 : *InterfaceID* のインターフェース定義が不正です。

InterfaceID の部分には、実際に指定したインターフェース ID が埋め込まれて表示されます。本来はオペレーション名を表示するのが正しい仕様です。この現象は、オペレーション名を不正な値に変更した場合も同様に発生します。

影響範囲

インターフェース定義のオペレーション名やオペレーション型を不正に設定している場合にのみ影響します。また、状況表示画面のエラー・メッセージの表示以外は影響ありません。

[11-355-35379] 状況表示の GUI でノードの処理が完了後にチェック・アイコンがつかない

障害概要

状況表示の GUI でノードの処理が完了後にチェック・アイコンがつかない場合がある。

障害詳細

フィールド参照ノードで参照するフィールドが配列になっているとき、そのノードの処理が完了しても状況表示の GUI でチェック・アイコンが表示されませんでした。ただし、処理中のピン・アイコンは表示されます。

影響範囲

フィールド参照で配列フィールドを指定している場合以外は影響ありません。

[12-179-48322] JSP で javax.servlet.http.HttpServletRequest のメソッド getQueryString を呼び出すと null が返る

障害概要

クライアント・サービスの Web アプリケーションに含まれる JSP ファイルにおいて、javax.servlet.http.HttpServletRequest のメソッド getQueryString を呼び出すと、null が返る場合がある。

障害詳細

クライアント・サービスの Web アプリケーションに含まれる JSP ファイルにおいて、com.ibm.FormConnect.client.LayoutControl クラスのメソッド getExtendActionURL や createExtendButton で生成された URL にアクセスした際、開いた JSP 内で javax.servlet.http.HttpServletRequest のメソッド getQueryString を呼び出すと null が返る場合があります。

影響範囲

クライアント・サービスの Web アプリケーションに含まれる JSP 内で javax.servlet.http.HttpServletRequest のメソッド getQueryString を使用している場合以外は影響ありません。

フロー・エンジン

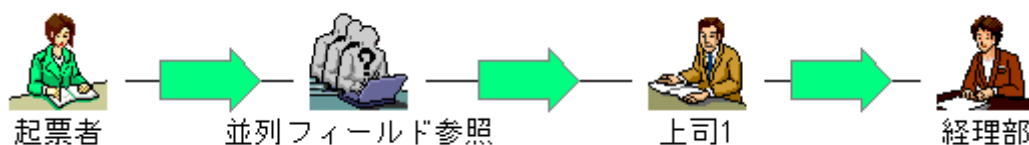
[12-149-41472] 動的代行が追加されないケースがある

障害概要

経路定義において、動的に経路を追加するような操作(例えば、並列フィールド参照ノード、APIによる動的経路追加など)を行うと、それ以降の経路の各ノードにおいて、動的代行の設定が効かなくなり、動的代行のレコードが追加されない。

障害詳細

例えば、次のような経路があります。



この場合に、動的に経路を追加するノード「並列フィールド参照」のノード以降のノード(例えば「上司 1」ノード

や「経理部」ノード)で、動的代行を追加する設定を行っていても、動的代行のレコードは追加されませんでした。

影響範囲

動的代行を追加する設定を行っていない場合には影響ありません。また、動的代行を追加する設定を行っていても、経路定義上、そのノードよりも前のノードにおいて、動的に経路を追加するような操作を行っていない場合には影響ありません。

[12-154-68893] 監視 API でデッドロックが発生する

障害概要

複数の監視 API が、同じフロー・エンジンまたはメッセージ・サービスを監視すると、DB のデッドロックが発生する可能性がある。

障害詳細

監視 API の ear ファイルを複数インストールして、複数の監視 API が同じフロー・エンジンまたはメッセージ・サービスを監視するように設定します。その複数の監視 API が、同じタイミングで FlowEngineInfo テーブルの同じレコードを参照・更新した場合に、DB のデッドロックが発生する可能性があります。

また、複数の監視 API が同じフロー・エンジンやメッセージ・サービスを監視していない場合でも、FlowEngineInfo テーブルに、FlowEngineId カラムへのインデックスが設定されていない場合には、DB のデッドロックが発生する可能性があります。

影響範囲

監視 API を使用していない場合には影響ありません。また監視 API を使用していても、複数個の監視 API を同時に使用していない場合には影響ありません。

管理画面

[12-052-37825] 代行者設定の編集時にコマンドが 2 回発行される

障害概要

代行者設定の編集を行った時に、FormWave の内部でコマンドが 2 回発行される。

障害詳細

代行者設定の画面から、代行者の編集の操作を行った時に、FormWave の内部でコマンドが 2 回発行されていました。これを 1 回だけ発行されるように修正しました。

影響範囲

コマンドが 2 回発行されたことによる動作上の影響はありません。

[12-192-45800] 「代行設定」ボタンを押すと NullPointerException が発生する

障害概要

ユーザーの一覧から任意のユーザーを選択して「代行設定」ボタンを押すと、エラー・ダイアログが開き NullPointerException が発生したというメッセージが表示されて代行設定が行えない。

障害詳細

名前が空のフォームクラスを定義した状態で、ユーザーの一覧から任意のユーザーを選択して「代行設定」ボタンを押すとサーバー側で NullPointerException が発生しエラー・ダイアログが表示されます。この時、代行設定の編集は行えません。この問題は Oracle をご使用の場合にのみ発生します。

影響範囲

DB2 をご使用の場合は影響ありません。

メッセージ・サービス

[11-340-53027] JMS メッセージ管理ツールに不正なパスワードでログインできてしまう

障害概要

JMS メッセージ管理ツールで、設定されたパスワードとは異なるパスワードでもログインできてしまう。

障害詳細

FormWave 機能が ON の状態で、パスワードを設定していない (パスワードがブランク指定) ユーザーでログインする際に、パスワードのフィールドにブランク以外の任意の文字列を指定していてもログインに成功してしまいます。

影響範囲

JMS メッセージ管理ツールをご使用でない場合は影響ありません。パスワードが設定されていない (パスワードがブランク指定) ユーザーでログインする場合にのみ発生します。

[11-316-67305] コネクションの分離レベルが、フロー・エンジンやクライアント・サービスの分離レベルと異なる

障害概要

コネクションの分離レベルが、フロー・エンジンやクライアント・サービスが使用しているコネクションの分離レベルと異なる。

障害詳細

フロー・エンジンやクライアント・サービスが使用している分離レベルは TRANSACTION_READ_COMMITTED であり、この分離レベルが FormWave の分離レベルです。ただし、メッセージ・サービスが使用しているコネクションの分離レベルは、TRANSACTION_REPEATABLE_READ になっていました。

WAS のデフォルトの分離レベルをそのまま使用していたのが原因です。

影響範囲

メッセージ・サービスを使用していない場合には影響ありません。

また、この分離レベルの違いによる、メッセージ・サービスの動作上の問題は発生しておりません。

開発環境

[11-320-44945] テキスト・フィールドの文字の長さが未設定でも定義エラーとして検出されない

障害概要

インターフェース・デザイナーの「フィールド定義」タブで、テキスト型フィールドの”文字の長さ”が未設定であっても定義エラーとして検出されない。

障害詳細

インターフェース・デザイナーの「フィールド定義」タブで、テキスト型フィールドの文字数制限を”最大文字数”もしくは”固定文字数”に設定している場合に、”文字の長さ”が未設定であってもエラー・チェックで定義エラーとして検出されません。本来、文字数制限を”最大文字数”もしくは”固定文字数”に設定した場合は、必ず”文字の長さ”を設定する必要があります。

影響範囲

インターフェース・デザイナーをご使用でない場合は影響ありません。また、この問題は V6.1.0.1 のみで発生します。V6.1.0.0 では発生しません。

[11-337-58434] 数値フィールドのプロパティ設定で”小数点以下”というラベルがアクティブにならない場合がある

障害概要

インターフェース・デザイナーの「フィールド定義」タブで、数値型のフィールドを選択した際に表示される”フィールドのプロパティ”の”小数点以下”というラベルがアクティブにならない (グレーアウトしたままになる) 場合がある。

障害詳細

インターフェース・デザイナーの「フィールド定義」タブで、数値型のフィールドを選択した際に”フィールドのプロパティ”にある”小数点以下”というラベルが、形式として”固定”を選択しているにもかかわらずアクティブにならない場合があります。

影響範囲

インターフェース・デザイナーをご使用でない場合は影響ありません。また、この問題がクライアント・サービスやフロー・エンジンといった FormWave の実行環境での動作に影響を与えることはありません。

[11-352-51408] 簡易式の入力エディターで入力していない改行が挿入されてしまう

障害概要

プロジェクト・デザイナーおよびインターフェース・デザイナーの簡易式入力エディターにおいて、改行を入力した場合に一度保存して開き直すと入力していない改行が勝手に挿入される。（改行文字が勝手に増えてしまう）

障害詳細

プロジェクト・デザイナーで経路の矢印を選択した状態で「プロパティ」タブに表示される「追加条件」入力用の簡易式入力エディター、およびインターフェース・デザイナーの「マッピング定義」タブでマップ・タイプを”式”とした時にマップ値カラムから開くことができる「式のマップ」ダイアログの簡易式入力エディターにおいて、改行を入力した状態で一度ファイルに保存後、再度保存したファイルを開くと改行の数が勝手に増えてしまいます。改行の数はファイルを保存して開くたびに2倍になります。

影響範囲

プロジェクト・デザイナーおよびインターフェース・デザイナーの簡易式入力エディターをご使用でない場合は影響ありません。

[12-157-50151] リクエスター用 WSDL 生成時のエラー・メッセージの内容に誤りがある

障害概要

インターフェース・デザイナーの「インターフェース定義」タブで、「WSDL 生成」ボタンを押して WSDL ファイルを生成しようとした際に表示されるエラー・メッセージの内容が実際のエラー内容と異なる。

障害詳細

インターフェース・デザイナーの「インターフェース定義」タブから「WSDL 生成」ボタンを押した際に、WSDL ファイルを生成しようとしているインターフェース定義に対するマッピング定義が存在し、且つそのマッピング定義に定義エラーがある場合に、インターフェース定義には定義エラーが無いにもかかわらずエラー・ダイアログに「インターフェース定義にエラーを検出しました。」というメッセージが表示されてしまいます。

影響範囲

インターフェース・デザイナーをご使用でない場合は影響ありません。

[12-171-40936] マッピング定義で添付ファイル型のフィールドがマップできてしまう

障害概要

インターフェース・デザイナーの「マッピング定義」タブで、本来はマップすることができない添付ファイル型のフィールドをマップすることができてしまう。

障害詳細

インターフェース・デザイナーの「マッピング定義」タブで、パラメーターの型が string もしくは ArrayOfString の場合に、マップ・タイプを”フィールド”としてマップ値のカラムから「フィールド選択」ダイアログを開くと、本来はマップできない添付ファイル型のフィールドもリストされてしまいます。また、添付ファイル型のフィールドをマップしても定義エラーのエラー・チェックではエラーとして検出されません。

影響範囲

インターフェース・デザイナーをご使用でない場合は影響ありません。添付ファイル型のフィールドをマップしている場合、サービス・リクエスターの実行時にはエラーが発生します。

フィックス・パック 4 に含まれる機能追加項目の説明

クライアント・サービス

[12-008-50690] 「伝票の再利用時には、イベント処理の onOpenForm が呼ばれない」の互換モードを追加

機能概要

V6.0 FP2, V5.1 FP3 で修正された問題「伝票の再利用時にイベント処理の onOpenForm() が呼ばれない」の互換モードを追加。

機能詳細

V6.0 FP2, V5.1 FP3 で修正された問題「伝票の再利用時にイベント処理の onOpenForm() が呼ばれない」の互換モードを追加しました。

fcinstall.properties ファイルに以下のプロパティを設定することで、この問題が修正される前と同じ動作になります。すなわち、伝票の再利用時にイベント処理の onOpenForm が呼ばれなくなります。

```
eventListener.onOpenFormCompatible=true
```

サービス連携機能

[12-192-48607] 取消し、取戻しオペレーションの追加

機能概要

サービス・プロバイダーのオペレーションに取消し、取戻し処理を追加。

機能詳細

このオペレーションを呼び出すことにより、Webサービス経由で伝票の取消し、取戻し処理が可能になります。この機能の詳細については、本フィックス・パックに同梱のサービス連携ガイドの『第4章 SOAサービス・プロバイダー機能について』を参照してください。

互換性

以前のバージョンのWSDLファイルを元にした起票(ドラフト保管)リクエストも問題なく処理されます。

[12-192-48251] 起票処理時に所属組織と送付済みコピーモードを指定可能にする

機能概要

サービス・プロバイダーの起票オペレーションのパラメーターに所属組織と送付済みコピーのコピーモードが指定可能になる。

機能詳細

複数の組織に所属している場合の所属組織を指定した起票処理、送付済み伝票のコピーモードを指定した起票処理が可能になります。

この機能の詳細については、本フィックス・パックに同梱のサービス連携ガイドの『第4章 SOAサービス・プロバイダー機能について』を参照してください。

互換性

以前のバージョンのWSDLファイルを元にした起票リクエストも問題なく処理されます。

[12-192-48814] HTTP 基本認証機能を付加する

機能概要

サービス・リクエスターから Web サービスを呼び出す時に、HTTP 基本認証を付加する機能を提供する。

機能詳細

サービス・リクエスターから Web サービスを呼び出す時に、HTTP認証の情報を付加することができるようになりました。これにより、呼び出し先のサービス・プロバイダーがHTTP認証を必須としているようなWebサービスも呼ぶことが可能になります。

この機能の詳細については、本フィックス・パックに同梱のプログラマーズ・ガイドの『第4章 プロジェクト開発』、サービス連携ガイド『第5章 SOAサービス・リクエスター機能について』を参照してください。

[12-192-49808] 処理定義の副作用としての Web サービス呼び出しを可能にする

機能概要

処理定義の副作用として Web サービスの呼び出しを可能にする機能を提供する。

機能詳細

経路定義上の処理定義の部分で、Webサービスの呼び出しを指定することができるようになります。これにより、ある処理を行った時に毎回Webサービス呼び出ししたい場合などに、容易に指定することができるようになります。この機能の詳細については、本フィックス・パックに同梱のサービス連携ガイド『第5章 SOAサービス・リクエスト機能について』、プログラマーズ・ガイドの『第4章 プロジェクト開発』を参照してください。

[12-192-47922] 構造体形式のメッセージを扱えるようにする

機能概要

サービス・プロバイダーの要求メッセージやサービス・リクエストの要求および応答のメッセージで、構造体形式のメッセージを扱える機能を提供する。

機能詳細

サービス・プロバイダーの要求メッセージやサービス・リクエストの要求および応答のメッセージで、構造体形式のメッセージを扱えるようになり、構造体形式で保持していたデータとFormWaveのフィールドデータとのマッピングを容易に行うことができるようになります。

この機能の詳細については、本フィックス・パックに同梱のサービス連携ガイドを参照してください。

その他

[12-191-40128] ユーザー操作のロギング機能

機能概要

クライアント・サービス、管理サービス、プロジェクト開発環境でのユーザーの操作をロギングするための機能を提供します。

機能詳細

FormWaveのユーザー（エンド・ユーザー、管理者、開発者）がクライアント・サービス、管理サービス、プロジェクト開発環境（プロジェクト・マネージャー、プロジェクト・デザイナー、インターフェース・デザイナー）で行った操作の内容をロギングするための機能を提供します。

この機能の使用方法については、本フィックス・パックに同梱のプログラマーズ・ガイドの『第12章 ユーザー操作のロギング』を参照してください。

付録A これまでにリリースしたフィックス一覧

機能拡張項目

(FixPack 1 追加分)

■IE V7, Mozilla Firefox V2.0 のサポート

IE(Internet Explorer) V7, Mozilla Firefox V2.0 をサポートしました。

■アーカイブ伝票のグループメンバーへのアクセス権限の付与

アーカイブ伝票のアクセス制御で「すべての処理者と代行者」を指定した場合に、グループノードでの処理者として、グループの ID の他に、実際に処理を行ったグループのメンバーにもアクセス権限が付与されるようにする機能を提供します。

■アーカイブの添付ファイルテーブルを必須としない

システムリポジトリ以外にアーカイブテーブルを定義した場合に、アーカイブの添付ファイルテーブルを必須としないようにする機能を提供します。

■代行者を取得する API で、静的な代行者のみを取得する API を追加

メールテンプレートから使用可能な API として、静的な代行者のみを取得するための API を提供します。

■WPS, WESB V6.0.2 のサポート

WPS(WebSphere Process Server), WESB(WebSphere Enterprise Service Bus)の V6.0.2 をサポートします。

■プロジェクト・デザイナーでのスペース付きのユーザーID の登録

プロジェクト・デザイナーでスペースの入ったユーザーID やグループ ID の登録を可能にする機能を提供します。

■DB 転記のカラム設定で式をそのまま埋め込む

DB 転記の転記先カラム設定で、SQL 関数などの式をそのまま埋め込むことができる機能を提供します。

■Eclipse 版開発ツールパッケージの SDP V7 サポート

Eclipse 版の開発ツールパッケージで、SDP(Software Development Platform)の RAD(Rational Application Developer)、RSA(Rational Software Architect)の V7 をサポートしました。

■Eclipse 版開発ツールパッケージの WID V6.0.2 のサポート

Eclipse 版の開発ツールパッケージで、WID(WebSphere Integration Developer) V6.0.2 をサポートしました。

■テーブル・セットアップ・ツールのエクスポート機能

テーブル・セットアップ・ツールで、テーブル作成用 DDL をファイルに出力する機能を提供します。

(FixPack 2 追加分)

■Excel を利用した伝票開発支援ツールの提供

FormWave の Excel を利用した伝票レイアウトを開発するための「伝票開発支援ツール」を提供します。詳細は、V6.1 FixPack2 に同梱の「Excel を利用した伝票開発ガイド」を参照してください。

(FixPack 3 追加分)

■DB 転記における GENERATED ALWAYS 指定のカラムのサポート

DB 転記において、転記先のカラムに GENERATED ALWAYS 指定のカラムをサポートする機能を提供します。

■プロジェクト・マネージャーへの SSL でのログイン

プロジェクト・マネージャーに SSL でログインできるようになりました。

■プロジェクト・マネージャーでのプロキシ・サーバー経由でのログイン

プロジェクト・マネージャーで、プロキシ・サーバー経由のログイン機能を提供します。

修正項目

(FixPack 1 追加分)

- 不正な URL を受け取った時に、FormWave のサーブレットが Web コンテナに破棄される
FormWave のサーブレットを使用して JSP ファイルを呼び出す際に、JSP ファイルを指定するパラメーター値に "/servlet/(サーブレット・クラス以外のリソース名)" を指定すると、Web コンテナにより FormWave のサーブレットが破棄されてしまい、その後使用不可になってしまう。
- ファイナライザーで OutOfMemory エラーが発生する
FormWave のアプリケーションが OutOfMemory エラーとなり停止してしまう。
- プロジェクトの更新が即座に反映されない
「処理依頼メールテンプレート/通知クラス」、もしくは「通知処理・動的代行」の通知処理が設定されているプロジェクトを起票後（もしくは承認処理などでも自動処理が実行される処理後）に、フロー・エンジンを動かしたままプロジェクトの更新を行っても、更新直後の 1 回目の起票では変更が反映されない。
- JMS メッセージ管理ツールで複数ブラウザから操作するとキュー一覧画面が正常に動作しない
JMS メッセージ管理ツールのキュー一覧画面で、複数のブラウザから同時にキューの登録や削除処理をした場合に、登録済みのキューの登録や、削除済みのはずのキューの削除などの操作が可能になってしまう。
- メッセージ起票時で起票者に登録されていないユーザー ID を指定すると Fatal Error となる
メッセージ起票時に、起票者のユーザー ID (fw_processorId プロパティ) もしくは代行者のユーザー ID (fw_actingProcessorId プロパティ) に、登録されていないユーザー ID を指定すると Fatal Error となってメッセージ・サービスが停止する。
- 数値の応答で "INF" または "-INF" を受け取るとエラーになる
サービス・リクエスターが Web サービス・プロバイダーからの応答値に数値型 (double/float) の無限値を受け取った場合にエラーとなる。
- date 型のパラメーターの値が 1 日前の値になる
date 型のパラメーターに値をセットすると、要求 SOAP メッセージにはセットされた日付の 1 日前の値がセットされて送信されてしまう。
- 式を用いて配列型フィールドをマップすることができない
マッピング定義において、配列型 (ArrayOfXXX 型) パラメーターに式を使って配列フィールドをマッピングしていると、実行時にエラーとなる。
- 型に合わないデータを送信しようとしても、エラーとならない
インターフェース定義で指定したパラメーターの型に合致しないデータを送信しようとした場合に、サービス・リクエスター側でエラーにならない。
- プロジェクト・デザイナーの画面で、一部の文字が文字化けしている
プロジェクト・デザイナーの画面で使用されている一部の文字で文字化けが発生していて、"?" と表示されている部分がある。
- DB 転記のカラムタイプに半角スペースが入力できない
DB 転記機能の「転記先カラム設定」ダイアログの「タイプ」を指定する入力フィールドにおいて、半角スペースが入力できない。
- 自動処理での通知処理の詳細設定ダイアログにタイトルがない
プロジェクト・デザイナーの自動処理での通知処理の詳細設定ダイアログを表示した時に、ダイアログにタイトルが表示されない。
- サーバー登録時にインターフェース定義とマッピング定義のエラー数がカウントされない
Eclipse 版のインターフェース・デザイナーにおいて、プロジェクト定義にエラーがあると表示されるダイアログのエラー数に、インターフェース定義とマッピング定義のエラー数がカウントされていない。
- 不正なプロバイダー用 WSDL が生成されてしまう
インターフェース・デザイナーにおいて、フィールド定義の「WSDL に含める」をすべて「いいえ」にした状態でプロバイダー用の WSDL 生成を生成した場合に、不正なプロバイダー用の WSDL ファイルが生成される。
- プロジェクトファイルを全く編集していなくても保存確認のダイアログが表示される

インターフェース・デザイナーで既存のプロジェクトファイルを開いた後、全く編集をせずにファイルを閉じようとする
と、保存確認のダイアログが表示されてしまう。

■WID に FormWave の WSDL を複数インポートできない

WID(WebSphere Integration Developer)にインターフェース・デザイナーから生成される WSDL ファイルを複数イ
ンポートしようとする、エラーとなりインポートができない。

■サーバー登録時にインターフェース定義が正しく登録されない

インターフェース・デザイナーからサーバー登録した時に、インターフェース定義が正しく登録されない場合がある。

■生成される WSDL 内のタグの name 属性に NCName 型で許されない文字列が入る

インターフェース・デザイナーで生成される WSDL ファイル内のタグの name 属性に、NCName 型で許されない文
字列が入る可能性がある。

■要求・応答のパラメーター名で先頭の文字に”_” (アンダースコア)が入力できない

インターフェース・デザイナーで、応答・要求のパラメーター名の先頭文字に”_” (アンダースコア)が入力できない。

■要求・応答のパラメーター名を編集した後タブ切り替えするとデータの不整合が起こる

インターフェース・デザイナーのインターフェース定義タブにおいて、要求・応答パラメーター名を編集してタブ切り
替えて確定させると、マッピング定義タブの表示に反映されない。

(FixPack 3 追加)

■特定条件下で、ユーザー処理が次のノードの処理としてあつかわれてしまう

特定の条件を満たす場合に、あるノードでのユーザーの処理が、その次のノードの処理として扱われてしまう。

■代行権限のないユーザーが処理待ち伝票にアクセスするとロックがかかる

他のユーザーの処理待ち伝票に、代行権限のないユーザーが、URL に uid が付加されている状態でアクセスすると、
「承認権限がありません」のエラーが発生するが、その時に伝票のロックがかかってしまう。

■数値フィールドに 8 桁以上の数値を入力すると、浮動小数点表記に変換されてしまう

伝票の数値フィールドに、整数部の絶対値が 8 桁以上 (10 の 7 乗以上または-10 の 7 乗以下) の数値を入力して、送付
や承認などの処理を行うと、次の処理者が伝票を開いた時に、入力した数値が浮動小数点表記に変換されてしまう。

■数値フィールドの形式を 0 桁「固定」で指定した場合に、フォーマットが正常に行われない

数値フィールドの形式を「固定」で小数点以下を 0 桁に指定したフィールドに数値を入力して、送付や承認などの処
理を行うと、次の処理者が伝票を開いた時に、入力した数値が正常にフォーマットされない場合がある。

■postSubmit/postSave 内での Session 情報へのアクセスとセッションタイムアウト処理との間でデッドロックが発生
する可能性がある

何らかの理由で、データベース処理にセッションタイムアウト時間をこえるような時間がかかった場合に、
postSubmit/postSave 内から Session 情報へのアクセスを行うと、デッドロックが発生する。

■JSP ファイルの中で非推奨 API が使用されている

JSP ファイルの中で、JDK1.4 以上では非推奨の API が使用されている。

■伝票の Submit 処理を行うと、DB のトレースファイルにエラー情報が出力される

データベース側のトレースレベルを上げて、伝票の Submit 処理を行うと、データベースのトレースファイルに
SQLException の情報が出力される。

■添付ファイル付きの伝票を再利用した後に、再利用元の伝票を削除すると、添付ファイルが参照できなくなる

添付ファイル付きの送付済み伝票から、伝票の再利用を行って伝票を送付した後に、再利用元の送付済み伝票を削除す
ると、現在処理中の伝票の添付ファイルが参照できなくなる。

■Column-AttrName 要素の Type 属性を”INT”から”CHAR”へ変更した場合に個人設定の変更ができなくなる

dirdef.xml で、Column-AttrName 要素の Type 属性を”INT”から”CHAR”へ変更すると個人設定画面からオプション
の設定変更ができなくなってしまう。

■別ウインドウ型でファイルを添付すると、添付ファイルのリンク表示がフルパス表示になる

別ウインドウ型でファイルを添付した時に、添付ファイルのリンク表示がフルパス表示になる場合がある。

■一覧画面で一部の表示がエスケープ処理されていない

代行者などの一覧画面において、一部の表示で値のエスケープ処理がされていない。

■状況表示画面などで、日本語を入れて検索すると文字化けが発生して検索できない

状況表示画面などにおいて、日本語を入れて検索しようとする、文字化けが発生して検索できない場合がある。

■配列型の添付ファイルフィールドに、別ウインドウ型でファイルを添付しようとする、JavaScript エラーが発生
配列型の添付ファイルフィールドにおいて、配列の一つの要素に対して、添付ファイルの指定方法を別ウインドウ型にし、ファイルを添付しようとする、JavaScript のエラーが発生してファイルが添付できない。

■StaleConnectionException の時にコネクションが破棄されない

DB サーバーの再起動などで、フロー・エンジンの処理中に StaleConnectionException が発生すると、データソースのコネクションプールからコネクションが破棄されない。

■動的経路の宛先が複数伝票でまったく同じになってしまう

同じタイプの動的経路を追加するような処理が短時間に複数伝票で発生し、それをフロー・エンジンが一度に処理しようとした場合に、動的経路の宛先が複数伝票でまったく同じになってしまいます。(先に処理した伝票の宛先が適用されてしまう)

■プログラムノードのコードで Error が発生すると、システムエラーになってしまう

プログラムノードで java.lang.Error のエラーが発生すると、該当の伝票が、エラー伝票ではなく、システムエラーになってしまう。

■フロー・エンジン・コンソールの機能が有効になっていないと、監視 API の機能が使用できない

フロー・エンジン・コンソールの機能が有効になっていないと、監視 API の機能が使用できない。

■処理定義でのメール送付失敗時の動作が仕様と異なる

fcengine.properties の Error.SkipMail プロパティが"false"に設定されている場合に、処理定義のメール送付に失敗した際の動作が仕様と異なる。

■DB 転記で DB2 の CLOB 型カラムに Null 以外の値をセットすると SQLException が発生する

DB 転記で DB2 の CLOB 型カラムに Null 以外の値をセットした際に、その他の TIMESTAMP 型や INTEGER 型のカラムなどへの値のセット時に SQLException が発生する場合がある。

■特殊な環境において自動処理で実行されない場合がある

特殊な環境において、自動処理がエラーになり実行されない場合がある。

■インターフェース ID が不正の場合に、NullPointerException が発生する

Webサービスノードで指定したインターフェースIDを、インターフェース・デザイナーであとから変更・削除して、そのままサーバー登録したような場合、サービス・リクエスター実行時にNullPointerExceptionが発生してしまう。

■不正なオペレーションタイプの時に NullPointerException が発生する

Webサービスノードで指定したインターフェースのオペレーション型をあとからインターフェース・デザイナーで要求/応答から一方向に変えてそのままサーバー登録した場合、サービス・リクエスター実行時にNullPointerExceptionが発生してしまう。

■フォルダー設定画面の表示が「フォルダ」になっている

フォルダーの設定画面のタイトル表示が「フォルダ」になっている。

■JMS メッセージ管理ツールで接続オブジェクトのクローズに失敗する

JMS メッセージ管理ツールで接続オブジェクトのクローズに失敗する。

■インターフェース・デザイナーの初期値設定用スピン・ボタンを操作するとエラー・ダイアログが表示される

インターフェース・デザイナーで、配列フィールドの初期値設定用スピン・ボタンを操作するとエラー・ダイアログが表示される場合がある。

■インターフェース・デザイナーでフィールド・プロパティがリセットされてしまう

インターフェース・デザイナーの「フィールド定義」タブで、「フィールドのプロパティ」のフィールド・タイプ固有の設定内容(テキスト・タイプの「文字数制限」や、数値タイプの「形式」など)がリセットされてしまう場合がある。

商標

本書中、以下の用語は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

IBM、FormWave、DB2、WebSphere、Rational、AIX

本書中、International Business Machines Corporation 以外の商標または登録商標は以下の通りです。

"Java" およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

"Microsoft", "Windows", "Windows NT", および"Windows"ロゴは Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

"Linux"は Linus Torvalds の米国及びその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。